

## 事業活動報告

事業所名 支援センターお結び

1.2021年度 事業所方針
<p>①目の前の困りごとだけにとらわれず、その背景にある課題を掘り下げて、日常生活全体を支援していきます。</p> <p>②相談支援のスキルアップを図ります</p> <p>③啓発活動に力を入れて、地域づくりの種を蒔いていきます。</p> <p>④障害者の権利擁護、虐待の未然防止や早期発見、迅速な対応、その後の適切な支援を行います。</p>
2.利用者・職員状況
<p>・計画相談 契約者数：315名 担当職員：専任3名 兼任1名</p> <p>・一般相談 相談人数：122名 相談件数：900件担 当職：員専任1名 兼任2名</p>
3.実践内容と成果
<p>・計画相談の対象者は3月末現在315名で、1年間の新規契約者14名、契約終了者12名ありました。契約終了の利用として、サービス利用終了、介護保険への移行、転居、死亡が挙げられます。一般相談は122名の方から相談を受けていますが、お結びや他事業所の計画相談が入っている方からの相談もあり、必要に応じて計画相談担当者と連携を取るようになっています。</p> <p>・計画相談も一般相談も多岐にわたる相談があり、障害福祉サービスの調整だけでなく他機関・他領域との調整や連携が必要なケースが増えてきています。家族関係の課題、経済的な課題、医療的な課題など、一相談機関では対応できないケースも多く見られ、必要に応じて行政、高齢事業所、教育機関、生活困窮の機関等とも連携を取りながら進めました。またヤングケアラーや「老々介護」あるいは「老障介護」といった社会的な問題となっているケースも、身近で起きている実態があります。</p> <p>・障害者虐待や虐待の疑いに関する通報の特徴的なこととしては、養護者による虐待や虐待の疑いの通報が多くあり、行政と連携して対応しています。また一昨年に圏域内の事業所内で起きた性的虐待は虐待者が逮捕され、昨12月に懲役2年執行猶予5年の判決が出ました。</p> <p>・計画相談の中では、事業所から「もう事業所では見られません」「新しい行き先を探してください」「3月末で契約を切ります」と直接利用者家族に伝えられ困惑されるケースが数件ありました。相談員に対しても事業所から同様のことが伝えられ、行政や京都府も巻き込んだ対応になりました。措置制度から利用契約制度になり、事業所と利用者は対等な立場というけれど、実際には、障害の重い人ほど、利用できる社会資源は少なく、「利用できなくなったら在宅生活が難しい」人が多いことが現状です。単に個人の問題として捉えるのではなく、どうすればよいのか、どのような手立てがあるのかをこの地域の課題として取り組んでいかなければなりません。</p>
4 次年度以降への課題とそれに対する取り組むべき実践内容
<p>・地域の中核となる障害者相談支援センターを目指して、障害のある方の生活の質の向上につながる支援や人権意識に配慮した質の高い相談支援サービスが提供できるよう事業運営を行います。</p> <p>・「次世代」への移行を目指して、日常業務の中で相談対応者の状況の共有や支援の検証を随時実施するとともに、研修等を通して相談支援専門員のスキルアップを図り、地域課題を発信できる人材育成に努めます。</p>

## 事業活動報告

事業所名 地域活動支援センター絆

1、2021年度 事業所方針
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 亀岡在住の主に知的障害や障害のある人たちがこの地域の主人公として、いっそう心豊かに主体的に暮らしていけるよう、生きる力を強める支援をします。</li> <li>・ 利用者のニーズを探り、一人一人ほっとできる場、落ち着ける場の模索をしていきます</li> <li>・ センターの職員間で報告・連絡・相談していきます</li> </ul>
2、利用者・職員状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絆専従職員1名、アルバイト1名／・絆登録数 29名</li> </ul>
3、実践内容と成果について
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今年度は絆を利用される方が増え、1日で10名来られる日もありました。</li> <li>・ 今年度は、絆を利用される方が増えましたが、天候の関係やその日の調子などの関係もあり10名来られる日もあれば1名のときもあり、曜日ごとのアンバランスさがある1年でした。自分の決めた曜日に来られる方、調子の良い日に来られる方、天気の良い日に来られる方、昼から来られる方・・・などそれぞれの利用の仕方があります。また、次へのステップアップを目指して利用される方や絆を“自分の居場所”と感じて利用される方など様々です。問い合わせや他の相談支援機関からの紹介で絆に繋がった方も含め、今年度の新規利用者は12名でした。</li> <li>・ 「コロナで閉まってる所多いけど、絆はやってるしええな～」と話される方もあり、気軽に自分のタイミングで利用できる場の必要性を感じました。しかし、利用者が多いときは空間が限られているので密になってしまいます。その時は、昼食時は数名相談室で食べるなどなるべく密にならないように工夫していました。</li> <li>・ 高齢の母が入所し、一人で暮らすことに不安を抱えていたMさん。夏頃からお結びや絆を利用し家族以外の人とのつながりが広がり、いろいろな経験を積みまれています。利用当初は、電話での相談内容も「どうしていいかわからへん。」でしたが、今では自分から他利用者さんに話しかけたり、「○○作って。○○作りたい。」など自分の思いを存分に伝えられることができています。利用日数も徐々に増え、今ではヘルパー利用時間以外は毎日利用しています。毎日利用していることでいろいろな利用者さんとの関わりを持つことができ、ムードメーカーのような存在でMさんにとって絆が良い居場所になっていると感じます。        金銭管理はお姉さんがしてくださっていて何とかなっている状態ですが、今後は本人の思いも大切にしながら必要などころへつなげていきたいと思っています。</li> </ul> <p>午後からの活動では、お菓子を作ったり、観たいDVDを借りに行ったり見たり、カラオケやトランプゲーム、人生ゲームをしたり、利用者さん同士でお話をしたり・・・とそれぞれが参加しています。利用者全体に共通することは、絆を利用することで誰かの役に立ちたい（社会参加したい）という気持ちと、一人では寂しいので誰かと一緒にいたいということ。新型コロナの影響で、今まで以上に誰かと繋がってほしいという利用者の思いを感じ、また居場所として大切な場になっていると感じています。</p>

#### 4、次年度以降への課題とそれに対する取り組むべき実践内容

##### ○感染対策のため、検温や手洗い、消毒の継続

- ・利用者一人一人が、「また利用したいな～」と思えるような雰囲気作り
- ・絆を利用する目的はそれぞれ。一人一人のニーズに応えられるように、その時々で臨機応変に対応した活動、居場所作り、空間の工夫
- ・みんなが楽しめる外出取り組み
- ・利用登録はしているが、しばらく利用がない方への支援
- ・利用はなくても電話はあり、つながりを持っていたいと思っている方への支援  
→途切れることがないように引き続き支援が必要
- ・利用者の生活や生い立ち、背景等を踏まえその人を知る取り組み（アセスメント）
- ・絆に来られる機会を保障するための送迎の検討